

親子でおいでよ山村留学

九重町の野矢小 希望者募集

【九重】九重町野上の野矢小は本年度から、「親子山村留学」を希望する児童の募集を始めた。異学年で助け合うなど少人数教育のメリットを生かし、地域との交流にも力を入れた内容。同校は「自然豊かな場所ので思い出に残る体験ができ、多様な地域の文化に触れられる。一緒に楽しく学校生活を送りませんか」と呼びかけている。

全校児童は24人。年間を通して、シーカヤック体験やサツマイモ栽培、地域探検、スキーなど多彩な活動に取り組んでいる。住民約

400人のほとんどが加入する野矢校区活性化協議会と連携した干し柿作りなど、地域との交流も盛んだ。山村留学受け入れに向け

自然の中 少人数の学び

体験プログラムを増やして魅力向上を図ろうと、今年初めて田植えも行った。同協議会のメンバーと児童、教職員が6月中旬、学校近くの田んぼでもち米を手植え。秋の収穫後は餅つきも計画している。

町教育委員会は同校を山村留学のモデル校に指定。時松榮子教育長は「さまざま

まな事情を抱える人たちの選択肢として受け皿にもなれると感じている。まずはモデル校で実績を作り、他の学校にも広げていきたい」と話した。

親子で移住しての山村留学には町から月3万円の補助も。今どころ留学希望者は現れていないが、年度途中からでも歓迎するといふ。問い合わせは町教委教育振興課(0973・76・3812)。(宮家大輔)



親子山村留学を受け入れる野矢小(九重町野上)

地域との交流にも力



体験プログラムを増やそうと初めて取り組んだ田植えで、楽しそうにもち米を植える児童(6月、九重町野上)

親子久保さんこそよう

丸重・野矢小「山村留学」第1号



【丸重】全校児童が兄弟のような関係の小規模校ならではの良さを生かし、丸重町野上の野矢小(23人)が昨年度に設けた「親子山村留学」制度で本年度、利用第1号となる県外児童が転入した。鹿児島県薩摩川内市の久保美咲さん(8)は3年。母みゆきさん(41)は「顔写真」と共に同町に移り、地域のサポートも受けながら伸び伸びと過ごしている。



学校そばの田んぼで田植えに挑戦する親子山村留学生の久保美咲さん(右)と丸重町野上

と伸び伸びで教育人数少

みゆきさんは美咲さんにはさまざまな経験をしてほしいと考え、インターネットで山村留学制度を調べ、中々同校を知った。昨年、親子で数回訪れ、少人数教育の雰囲気や引かれ応募したという。「本人は不安が大きかったようだが、始業式で温かく迎えられすぐに溶け込んだ。学校であったことを話してくれる機会が増えた」と喜ぶ。

美咲さんは唯一の3年生で、2年生との複式学級で学んでいる。6月上旬には地元住民でつくる野矢校区活性化協議会と連携したもち米の田植えに挑戦。一列に並んで苗を手植えし、「泥の感触や腰を曲げる大変さに驚いたけど、楽しかった。餅にして食べるのが楽しみ」とほかにかんだ。

みゆきさんの住まいや仕事は同協議会がきめ細かく支援。「賃貸物件がないので助かった。長期休みは鹿児島で過ごすのが、条件に合った仕事も見つかった。由布院温泉が近いので仕事の幅は広いと思う」と話す。



同協議会前会長の佐藤義明さん(65)は「顔写真3年前、関係者で話し合いを続けて始めた制度。児童一人一人が主人公になれる学校。楽しく過ごしてもらったため、約150世帯の総力で応援したい」と意気込んでいる。

制度の適用は町内で暮らすのが条件で、申請が認められれば月3万円の手当金が給付される。年度途中でも応募できるという。問い合わせは町教委教育振興課(0973-7633812)。

(庄亨)